

企業 訪問 Interview



話し手：取締役副社長 ^{たかはし}高橋 ^{りょうすけ}良輔

代表取締役 ^{たかはし}高橋 ^{りょうすけ}隆助

COMPANY DATA

株式会社高良

所在地 (本部エコプラザ) 南相馬市原町区深野字入龍田117-7
T E L 0244-22-7111 F A X 0244-22-7114
創 業 1913年 資本金 1,000万円
従業員数 106名 事業概要 再生資源全般の仕入れ、加工、販売
U R L <https://www.takaryo.co.jp>

株式会社高良

～リサイクルを通して 循環型社会をリードしていく企業～

わが国の2024年の紙・板紙の古紙利用率は66.6%、回収率は81.7%と、世界でもトップクラスにあります（日本製紙連合会調べ）。回収率の高さは全国各地に古紙の回収システムが構築されていることが要因の1つです。株式会社高良は本県浜通り地域のほか、宮城県や山形県など東北各地で紙のほか金属やプラスチックなどのリサイクル事業を行っている企業です。

当社は社長が原町商工会議所の会頭を長く務めていたように、地域を代表する企業です。東日本大震災により、商圏の1つである双葉郡内が避難区域になるなど経営環境が変わる中で、震災からの地域復興にも貢献してきました。

今回は、南相馬市の本部エコプラザを訪ねて高橋良輔取締役副社長に事業内容や東日本大震災時のことなどについてお伺いしました。

■リサイクルを通じて循環型社会に貢献

— どのような事業を行っているのですか —

一般家庭とオフィス・工場・流通各店といった事業者から排出される紙・金属・プラスチック等を収集運搬して、選別、切断、圧縮などの処理工程を経て、製紙、精錬金属、プラスチックメーカーに原料として納入する事業などを行っています。原料として納入されたものはメーカーにより製品化されることで、廃棄物抑制、環境負荷の低減といった循環型社会の実現につながっています。他にはパソコンや太陽光パネルなどの回収・再資源化にも取り組んでいます。

■1913年に再生資源業者として創業、現在は東北各地をカバー

— 創業からの沿革についてお聞かせください —

当社は初代高橋要助が1913年に原町市（現南相馬市）で再生資源業として創業しました。1951年に合資会社高良商店として法人化、1987年に株式会社に組織変更し株式会社高良商店、1992年に社名変更し株式会社高良となり現在に至ります。

1989年に代表取締役役に就任した私の父高橋隆助が4代目となります。

当社が規模拡大したきっかけは、1953年に原町市に進出した製紙会社から古紙直納店に指定されたことです。取扱量が増大し再生資源業者としての事業基盤が出来上がっています。その後、当社はダンボール古紙を東北全域から収集する能力を有することで、東北各地の製紙メーカーの直納店に指定いただいております。現在では福島県内を中心に青森・秋田両県を除く東北各地に計13カ所の営業所があります。そのほかにエリスグループというグループ会社が東北各地にあり、当社営業所の無い地域もカバーしています。

■基本的には集めた地域での地産地消

— 集めた古紙や金属はどこに納めているのですか —

基本的にはその地域で集めた古紙や金属は、その地域にあるメーカーに納めておりまして、大体は東北域内あるいは北海道までです。一部、関東にも納めています。以前は古紙を輸出していた時期もありましたが、今は基本的に国内向けがメインでして、



本部エコプラザ

余った分を輸出する程度になっています。

当社の古紙取扱量は今から20年ほど前には1万5千トンほどありましたが、今は1万トンほどに減っています。人口減少に加えて、新聞の購読量が減っていること、電子書籍化で紙の書籍が減っているということもありまして、古紙の発生量は年々減ってきています。

■リサイクル業界は不況の影響を受けにくい

— リサイクル業界は経済動向や社会環境に影響を受けるのですか —

人が生活している限り、新聞紙や書籍などの古紙は発生しますので、不況の影響を受けにくい業界ともいえます。リーマン・ショックの時も新型コロナの時にも、売上げが大きく落ちた企業は多いのですが、当社では若干落ちた程度にとどまりました。我々の商売は世の中の景気に大きく左右されることはない、不況に強い業種ともいえます。

ただし、人口減少ということになりますと、人がいなくなれば経済活動が無くなりますので、大きく影響を受けることになります。既に人口減少は始まっており、今後も絶対に人口が減るということはわかっているのですから、それに対する対策を実行しなければなりません。

■太陽光パネル耐用年数到来を見据えて取扱い開始

— 太陽光パネルのリサイクルは人口減少対策の一環なのですか —

太陽光パネル回収を始めたきっかけとしては、当社の商圏の1つである双葉郡が避難区域となり多数の住民の方が避難されたことで、双葉郡からの古紙発生が無くなる分の対策として何か始めようとしたことです。

双葉郡内の被災エリアにメガソーラー施設が整備されましたので、20~30年と言われている耐用年数がくれば、いずれ廃棄されるだろう、その時に備えて今から太陽光パネルの回収を取り扱おうということになりました。太陽光パネルの部材はほとんど



様々な家電も回収しています

がガラスで、型枠のところが金属アルミ、モジュールという発電するシステムのところから銅といったものをリサイクルできます。

震災後に太陽光パネル設置が増えていますが、耐用年数が20年だとすると2030年ぐらいから一気に取扱量が増えるのではないかと思います。現在でも福島県が廃棄処理にかかる手数料を一部助成する制度ができてからは、取扱量が少し増えてきています。

■鉄鋼商社で鉄スクラップについて修行

— 副社長はこちらに入社される前にどのような仕事をされていたのですか —

当社に入社する前に、スクラップについて勉強してこいみたいな話になりまして、鉄鋼商社に入社し鉄スクラップを取り扱っていました。国内も海外も担当しましたが、米国の鉄スクラップをコンテナに詰めてベトナムに輸出することを担当したときは非常に苦労しました。受け取る側からは「何だこのスクラップは」とクレームがあり、送る側は「第三者機関で品質保証をもらっているから問題ない」と一歩も引かず、板挟みとなり大変でした。海外取引にはトラブルはつきものであり、加えて時差があるので対応に非常に苦労しました。

この会社には2年9カ月ほど勤め、その後、ゲーム関係の仕事をしたり、資格取得に専念したりなど1年ほど自由気ままに過ごした後、2010年当社に入社しています。入社して総務の仕事から始めて、半年後に東日本大震災がありました。

■震災直後1週間は米沢に本部機能移した

— 震災直後に会社は避難されたのですか —

震災自体による建物や設備への被害はガラスが割れるなどありましたけれど、大きな被害はありませんでした。その後の原発事故があったことで、会社の本部機能を震災直後1週間ほど山形県米沢市に移していますし、社員も米沢に多く避難しました。一時期は本社を仙台とかに移したほうが良いのではないかと聞いた話も出ましたが、原町で永らく事業を行い地元にお世話になっていることに加え、状況を



圧縮された空缶の大きな塊

見極めてみると原町は移転しなくても大丈夫そうなので県外移転の話は無くなりました。

私自身は震災の後しばらく岩手県盛岡市にある営業所に避難していました。2012年に南相馬市に戻ってくるまで県外勤務でしたので、震災直後2011年のことはわかりませんが、2012年時点の南相馬市ではコンビニが7時から23時までみたいな感じで、飲み屋さんには21時には閉まる店が多かったことを憶えています。

■ベガルタ仙台を応援する「エコ×ベガ」イベントを実施

— ベガルタ仙台の試合でのイベントをされていますね —

古紙・古着をサポーターの皆さまに試合の際に持ってきていただき、その買取費をサッカーJ2ベガルタ仙台に選手強化育成費として贈呈する「おうちに眠っている古紙・古着でベガルタ仙台を強くしよう!!」プロジェクトを行っています。年間3～4回イベントを開催しています。試合だけではなく、宮城県内の企業にエコパートナーになっていただき、その買取費も選手強化費として贈呈しています。このプロジェクトはベガルタサポーターの当社社員が企画してベガルタに提案し、当社がスポンサーになったと聞いております。自分の応援するベガルタを強化するために、毎回たくさん持ってこられる常連のサポーターの方がいらっしゃるそうです。

以前ですと町内子供会や老人会といった地域の団



回収された太陽光パネル



太陽光パネルを細断する装置

体で行う廃品回収において、当社が回収を行っていたのですが、時代の流れからそういう団体が減っています。そのためいろいろな形のイベントなどでリサイクルに関わっていかれたらと思っています。

■様々な形で集められたものを東南アジアに輸出

—古着はどうやって集めてどこでリサイクルされるのですか—

先ほど申しましたベガルタ仙台でのようなイベントとか、自治体での回収イベント、当社各営業所への直接持ち込みといった形で一般の方から集めています。そのほかにディスカウントストア、たまに引っ越し業者などから買い取っています。そうやって集まった古着はコンテナ詰めされて100%輸出となり、大体が東南アジア向けとなります。実は東南アジアでは東北からの古着は嫌われているといわれています。暑い東南アジア向けにジャンパーが入っていたりするからだと思います。モンゴル向けのルートもあるらしいと聞きますので、今後東南アジア向け以外も考えていかなければと思います。

■異動時期には多く持ち込まれる

—エコプラザに直接持ち込まれる方は結構いらっしゃるのですか—

ここエコプラザには、鉄くず、家電製品、古紙など家庭内で発生するものを直接持ち込まれる方、特

に古紙は結構いらっしゃいます。年度替わりで異動とか、大学進学ですとか、そういったことで今まで使っていたものがいらなくなることで、3月4月には多く持ち込まれるようになります。

廃プラスチックは自治体が回収したものを取り扱っています。家庭から出てくるプラスチックには様々なものがあります。当社では何年も前から廃プラスチックを分別しましょうということに取り組んでいますが、こちらが要望するような綺麗な形には分別されず、結局焼却されてしまうということになります。いろいろなものがリサイクル可能ですので、そのためにはきちんと分別されていないとリサイクルが難しくなります。

■集めた小型家電は山形工場解体

—自治体で回収イベントをやられていますね—

契約している自治体の回収イベントでリサイクル品を回収したり、自治体等に置かれた回収ボックスに投入されたものを回収してリサイクル処理しています。

パソコンなど小型家電に関しては山形営業所が使用済小型電子機器再資源化認定を受けていますので、東北各地の当社営業所から集められた小型家電を山形の工場解体しています。解体され生じた鉄くず・プラスチック・非鉄金属などは商社を通じて、国内メーカーで原料化されるなどしてリサイクルされています。パソコンの基盤・情報ディスクについては、本体からハードディスクを取り出し、ドリル

で読み取り不可能な状態にしてから、国内精錬メーカーで都市鉱山レアメタルが取り出されます。

■各営業所で地元の人を採用している

— 東北各地に営業所がありますが転勤で各県に勤務するのはですか —

今のところ必要な人材は充足していますが、平均年齢を考えると、いい人材がいれば新しく採用したいなと思っています。どうしても中途退職する人は出てきますので、人材確保は図っていかねければなりません。

採用は各営業所ベースで面接を実施して採用しています。ハローワークやインターネットなど色々な媒体を使って募集しています。山形営業所で働く人は山形で地元の人を募集するといった形です。転勤も一応ありますけれども、車で自宅から通勤できる範囲内です。

■循環型社会をリードしていく企業でありたい

— この先の貴社の展望についてお聞かせください —

まず1点目としまして、古紙に関しましては減少することが目に見えてわかっていますので、その中で回収率を上げるシステムをどう構築していくかと



震災時やリサイクルのことなど語っていただきました

いうことが課題だと思っています。

2点目としましては、当社では太陽光パネル、古着、小型家電など取扱い範囲を増やしてきました。新規分野として取り扱えるものにはどのようなものがあるか模索していきたいです。

当社の環境基本理念である「株式会社高良は、21世紀の資源循環型社会の実現に向けた社会ニーズに応え、再生可能資源のリサイクル処理や廃棄物の収集・運搬・処理などを適正に行うことによって、地域での廃棄物抑制、環境負荷の低減に努め、再生資源事業者としての事業活動を通して広く社会に貢献します。」を実現するため、これからもリサイクルを通して社会に貢献し、循環型社会をリードしていく企業でありたいと考えております。

インタビューを終えて

副社長が語られたように、原発事故直後は先が見通せずに県外移転を検討する企業もあったかと思いますが、当社も状況により移転も検討したのですが、地元で長年お世話になったので、地元で頑張っていくと判断されました。当社のように地元での事業活動を多くの企業が継続していったことで、被災地の復旧・復興が滞りなく進んでいったのではないのでしょうか。

また、リサイクルに関しては、福島県では2050年までに脱炭素社会の実現を目指すとともに、持続可能な循環型社会の実現に取り組んでいます。その一環として資源物のリサイクル率を向上させていくためには、新たに太陽光パネルのリサイクル事業に取り組んでいるように、当社のようなリサイクル企業に求められる役割と期待は大きいのではないのでしょうか。

(担当：高橋宏幸)